

理学療法学術大会発表への道
～スライド作成から演題発表～
学術大会部 阿部 司

まず前回の補足をします。愛知県理学療法学術大会をはじめ、近年の学術大会の多くは演者との連絡に E メールを使用します。このメールアドレスが間違っていたり、届いたメールを演者が確認していなかったりすると、演者に連絡が取れず大会運営に支障をきたします。メールは演者が適宜確認しているアドレスを正しく連絡して下さい。

では今回はスライド作成から演題発表までを解説します。

1. スライド・ポスター作成と発表原稿の作成

スライド・ポスター作成も抄録と同様に、まずは作成要項を熟読しましょう。PC 持ち込みの可否、PC の OS 並びに作成ソフトの指定、枚数やデータ量制限、アニメーションや動画使用の可否などが明記されていますので遵守して下さい。スライドの形式不備は操作の遅延やフリーズの原因となり、大会進行の妨げとなりますのでご注意ください。

作成のコツですが、まず抄録を見直して一番伝えたい点を明確にします。そして結論までの展開を意識しながら「はじめに」「対象」「方法」「結果」「考察」「まとめ」といった流れで作成します。発表時間が 6～8 分であればスライド枚数は 10 枚前後とし、スライド中の情報量（特に文字数）が多くなりすぎないようにします。

文字が目立つように背景を合わせ、文字を大きく文章は簡潔にします。「方法」「結果」は写真や図表を活用し、文章だけでなく視覚的に伝える工夫が重要です。「まとめ」は最後の 1 枚ですので発表の要点を短い文章で示します。

ポスター発表は口述発表と異なり発表前に閲覧する時間があることで、情報量が比較的多くなくても伝えることができます。「方法」「結果」により細かい説明を加えても良いでしょう。

スライドやポスターと並行して発表原稿を作成します。文字数は 1 分あたり 280～300 文字程度が無理なく読める目安です。スライドにない口頭だけの情報は極力少なく、スライドの内容に沿って説明すると分かりやすい発表になります。発表原稿ができたなら声に出して読みます。何度も読み込むことで前後のつながりや伝わりにくい点など修正点が分かってきます。他人に聞いてもらうことも良い方法です。修正を繰り返して何度も練習して下さい。

2. 学術大会当日～発表から質疑応答まで

演者は指定の時間内に受付を済ませます。ポスター発表であればポスターを掲示しましょう。後は自分のセッション開始前には次演者席で待機しておいて下さい。

発表は聴衆の方を向いて大きな声で行います。時々、スライドと発表原稿にずれがないかを確認します。発表時間終了時には何らかの指示がありますので、その後は速やかに発表を終えて下さい。

発表後の質疑応答は聴衆の反応が直接確認できる場です。質問に対する自分の意見を明快に述べて下さい。説明はくどくならないように、まず答えを端的に述べてから説明を加えるとすっきりします。もし質問の内容が漠然としていれば「ご質問の趣旨は～でしょうか？」などと論点を確認することは決して失礼ではありません。たとえ返答しにくいことであっても無言になることは避けましょう。

以上2回にわたって学術大会発表への手順を紹介しました。次回の愛知県理学療法学術大会は平成27年3月1日に名古屋国際会議場で開催されます。本記事を読んでいた一人でも多くの方が発表に向けて準備を進めていただけることを期待いたします。

参考文献・図書

- 1) 小山信之：標準理学療法学 理学療法研究法第2版. 内山 靖（編）. 医学書院，東京，2006, pp. 160-75.